

2022 全道モトクロス選手権シリーズ 第2戦札幌大会

開催場所：2022年7月3日 栗丘ライディングパーク

写真/記事 鶴巻 佑介



2022 全道モトクロス選手権シリーズ、第2戦が岩見沢市にある栗丘ライディングパークで開催されました。天候は晴れ、気温も 30℃を超え真夏日となり、コースは散水を行ってもすぐに乾いてしまい、先頭ライダー以外は埃により大きく視界を奪われるという過酷な状況でした。

後続の選手になればなるほど、視界不良におちいるため、上位を獲得するにはスタート後にどれだけ前に出るといことが重要だったのではないのでしょうか。前がほとんど見えない中でも全開で進まなければならない瞬間もあるため、度胸も必要となります。

また、今大会は気温が高い上に直射日光が当たる状況の中、道内最高峰の選手が走る10クラスについては20分+1周という長い時間を2ヒート走る必要があるため、相当な体力が奪われます。計画的な水分補給と栄養補給を行うことがレース後半も良いパフォーマンスを維持できます。



観客も土ぼこりの舞う中、コースサイドで汗を流しながら選手の応援に熱狂的になっていました。

モトクロスは他のモータースポーツよりも比較的選手に近い場所で観戦ができ、状況によっては観客の声援が選手に聞こえることも多いため、大会の時は会場全体が大きく盛り上がります。

【I Oクラスリザルト】



総合優勝を果たしたのは、現在全日本モトクロス選手権 IA-2 クラス参戦中の#42 河西琉選手が両ヒートとも優勝しました。河西選手は 2019 全道モトクロス選手権 IB-OPEN クラス、史上最年少でシリーズ優勝しています。

2位の#318 高関響祐選手はヒート2でホールショットを決めアグレッシブな走りを魅せたものの、河西選手に抜かれ2位に後退。3位は#3 寺島龍一郎選手でした。



【NA-OPENクラスリザルト】

優勝した選手は、2位と約1分もの差をつけ、ベストタイムは10クラスで出場していても上位入賞レベルであった1分47秒を叩き出した#011 笹島勇氣選手でした。2位の#55 藤原虎汰郎選手も笹島選手に負けじと迫力のある安定した走りで健闘しました。3位は#13 佃斗武選手でした。



【NB-OPENクラスリザルト】



参加選手が 30 名以上となり予選レースとなることもある NB-OPEN クラスは今大会 23 名の参加でした。

その中で優勝を勝ち取った#34 岩崎隼選手はヒート 1 で 2 位、ヒート 2 で優勝し、他を圧倒する迫力のある走りで総合優勝を果たしました。第 1 戦千歳大会で総合優勝した#55 菊池慶太郎選手はヒート 1 で優勝したものの、ヒート 2 で岩崎選手に優勝を奪われ、惜しくも総合優勝を逃し 2 位となりました。



3 位はヒート 1 で 7 位、ヒート 2 で 3 位となった#23 堂下徹選手でした。

ヒート 1 で 3 位となった#42 河西蓮選手はヒート 2 で 7 位となり、堂下選手と同じ 25 ポイントであったが、同ポイントの場合ヒート 2 で上位となった選手を総合順位で上位とするため、河西選手は 4 位となりました。



【J X クラスリザルト】

ヒート1、ヒート2ともに1位の#4 酒井隆成選手が総合優勝。2位は鳴海翔英選手、3位は阿部一斗選手でした。



【K 6 5 クラスリザルト】



ヒート1、ヒート2ともに1位の#2 田中翔太選手が総合優勝。多くの選手がヒート2でラップタイムを落とす中、田中選手は両ヒートとも6周12分34秒台と安定した走りで他の選手にスキを全く見せない走りで圧勝でした。

2位は#55 岩渕琉真選手、3位は#11 阿部一斗選手でした。阿部選手はK 6 5クラスにも出場して総合3位を獲得しています。J Xクラス、K 6 5クラスの2つのクラスにダブルエントリーすると、それぞれレースが2ヒートあるため、4ヒート走らなければなりません。2ヒート走るだけでも体力を使い果たす選手も多いため、ダブルエントリーする選手はほとんどいない中で、2クラスで3位獲得という結果は、誰もが賞賛してしまうことでしょう。



【C X 5 0 A／Bクラスリザルト】

C X 5 0 Aクラス・Bクラスは混走で1ヒートのみでのレースですが、Aクラスで優勝したのは#1 酒井力斗選手でした。酒井選手はK 6 5クラスにもダブルエントリーし、総合7位を獲得しています。2位の#8 阿部哲昇選手は全日本モトクロス選手権にも参戦中で、開幕戦の九州大会では2位獲得するなど、他の選手よりも多くのレース経験を積んでいます。また、阿部選手もK 6 5クラスダブルエントリーで結果は9位でした。



3位は#5 鈴木颯真選手でした。

そしてC X 5 0 Bクラス参加者は2st50ccのGASGAS MC50で出場した#1B 門間大和選手はホールショットからチェッカーフラッグが振られる最後まで独走状態でした。

門間選手もK 6 5クラスにダブルエントリーして13位獲得しています。

ダブルエントリーは子どものほうが多い印象でした。小さな体にも関わらず疲れ知らずで、大人よりも体力があるのではないのでしょうか。



【NB85クラス】



NB85クラスは昨年シーズンランキング上位3名が引き続き上位争いを繰り広げました。優勝は#2 萩平翼選手、2位は#3 鏈水よう子選手。鏈水選手は全日本モトクロス選手権の参戦経験も長く、着実に実力をつけてきています。



3位は#1 牧原武司選手。昨シーズンランキング1位を獲得した立場であるため、今シーズンも1位の座を守ることができるでしょうか。

【OP 8 5クラス】

N B 8 5クラスの選手が引き続きOP 8 5クラスに出場する中、飛び込んできたのはJ Xクラスで優勝した#4 酒井隆成選手でした。酒井選手は2ヒートのJ Xクラスとダブルエントリーにもかかわらず十分な体力を残していて、2位と10秒以上差をつけて優勝しました。

2位は#2 萩平翼選手、3位は#3 鍵水よう子でした。



【レジェンドオープンクラス】



レジェンドオープンクラスは全道モトクロス選手権で2022年に新設されたクラスで参加要件は下記となります。

- 年齢 50 歳以上
- 当該年度有効な MFJ 競技ライセンス(種目問わず)
- ピットクルーライセンス(運転免許証を持っていることを条件とするタイプ A)
- エンジョイ会員証、スポーツ安全保険加入を選択した競技役員ライセンス所持者
- 排気量の制限なしとする



今大会は3名の参加となりましたが、声を出して応援している観客もいて、選手も迫力のある走りで会場を賑わせていました。

